

## 創立者と殉教者たちの精神を生きましょう

2017 年聖クラレットの祝日のメッセージ

親愛なる兄弟の皆さん、スペイン内戦において殉教した兄弟たち 109 人が列福されるという恵みをいただき、今年の聖クラレットのお祝いは一層喜びにあふれています。今回列福される多くの宣教者たちも、また列福されたか否かにかかわらず会の歴史の中で殉教した多くの兄弟たちも、忠実な心をもって自らのすべてを捧げました。彼らのこの献身は、私たちとは関係のない「英雄的な行動」ではありません。むしろこれはクラレチアン宣教会の預言者的精神にとってとても大切な要素なのです。私たちの創立者は、殉教の霊性をとても深く生きていました。これについてはもう既に、109 殉教者の列福に際して皆さんに宛てた手紙に書きました。このようにクラレットも殉教した兄弟たちも自分の命を捧げて信仰をラディカルに証したわけですが、このような態度は急に生まれたものではありません。これはむしろ、養成期間や宣教者としての道のりの中で、キリストへと形作られていくというプロセスを生きる中で熟していった実りなのです。神の御言葉、聖体、聖母マリアの母性に満ちた心に養われて、彼らは神において自分たちの人生の土台を据えるため、共同体において兄弟愛を分かち合うため、そして宣教のために命を尽くすために必要な力を得るという経験したのです。また兄弟として共に日々を過ごすことによって、彼らは自分たちが受けた召命の喜びを生き、自らの命のすべてを決定的にささげる覚悟を自然と抱くようになったのです。

2 年前の第 25 回総会は、絶え間ない「個人的および共同体的な変容」のプロセスを歩むことを私たちに呼びかけましたし、その招きはいまも続いています。これはつまり、もう一度私たちのアイデンティティーの根本に立ち戻ること、すなわち「神との関係」（“霊”において神を礼拝すること）、「共同体生活」（証し人・メッセンジャーの共同体になること）、そして「宣教に生きること」（外に出向いていく会になること）という根本に立ち戻ることを意味しているのです（『Missionarii Sumus』64-75 番参照）。私たちの創立者は、行動において観想を生きていました。クラレットの疲れを知らない使徒的活動は、神の深い観想から生まれたものでした。彼は常に個人的祈りに時間を割き、聖体となられたキリストへと自らが形作られていくという豊かなプロセスを生きていたからこそ、あれ程までに宣教に身を捧げることができたのです。他方で、私たちの会を創立してからは、宣教を自分ひとりで生きるということは決してありませんでした。実際、ビックでも、キューバでも、マドリードでも、フランスでも、クラレットの家はいつも宣教共同体となっていました。クラレットの「使徒的祈り」と呼ばれるあの祈りには、これらすべての要素がつまっています。私たちが個人としても、また宣教共同体としても「神を知り、神を愛し、神に仕え、神を賛美すること」を探し求め、また同時に「人々が神を知り、神を愛し、神に仕え、神を賛美するように働くこと」も探し求めますように。そして私たちの人生が、そのように変容していく絶え間ないプロセスとなりますように（自叙伝 233 番参照）。

殉教した兄弟たちの模範に倣い、聖クラレットと共に、会のカリスマ的アイデンティティーにおいて私たちが成長していくために、創立者の祝日が新たな刺激となりますように。